

ドイツ連邦共和国における害虫の生物的防除

派遣国名:ドイツ連邦共和国
受入機関:ホーエンハイム大学
派遣期間: 2011.1.31~2011.4.15

私はドイツ連邦共和国のホーエンハイム大学に派遣させていただきました。滞在期間中は応用昆虫学研究室のZebitz教授の指導のもと、生物的防除学の技術を習得してきました。ここでは、コガネムシの分類と生態、寄生蜂の分類と生物的防除における利用、ハダニ、アブラムシの生物的防除等、農業害虫の基礎研究から応用研究まで行われていました。私はこのうち、ハダニの生物的防除法に関する研究を行ってきました。スワルスキーカブリダニは、ハダニ、アザミウマ、コナジラミ等の害虫を補食するダニであり、日本でも登録、販売されている生物的防除資材です。本種は害虫のみならず、植物の花粉をも食べるため害虫密度が低いときにも放飼することができます。今回はその特性を詳細に検討するために、餌として花粉を与えた場合、ハダニと花粉を共に与えた場合の生存率、卵数等を経時的に調査すると同時に関連する技術を習得してきました。



ホーエンハイム大学

また、種々の生物的防除資材を販売している農薬会社のセミナーに、研究室のスタッフと共に参加する機会にも恵まれました。そのセミナーでは生物的防除資材の最新の技術提供、研究の動向に関する発表、新規生物的防除資材の紹介などの講演が多数なされました。さらに、農家に技術指導をされている方と一緒に、生物的防除を実際に行っている現場を訪問することもできました。ドイツにおいて施設園芸で重要な害虫はハダニ、アザミウマ類およびアブラムシ等であり、これは日本と同様でした。技術指導員の方が言うには、25年前に生物的防除の重要性を述べたときには、農家の方の反応は大変悪かったそうです。しかし10年前から導入率が増え始めたそうです。



生物的防除を導入している農家にて

このように、生物的防除学に関する基礎、応用研究の場の大学、製造、販売を行っている企業、ユーザーである農家という様々な場所で情報を収集することができ、私にとって大変有意義なものでした。また大学でZebitz教授はじめスタッフの方、学生、ポスドクの方と顔見知りになれたことは、私の大きな財産となりました。

最後にこのような貴重な体験をさせていただきました日本学術振興会および本プロジェクトの関係諸氏に心よりお礼を申し上げます。